

薬物療法

薬は食事療法と運動療法のアシスト役です。

1型糖尿病の患者

インスリン投与を行います。→インスリンの37ページを参照

2型糖尿病の患者

食事療法と運動療法を行っていても、良好な血糖コントロールが得られない場合や、感染症や手術などで、体の中のインスリンの必要性が増加した場合に、薬物療法が行われます。

年齢や肥満の程度、糖尿病歴、慢性合併症の有無や進行の程度、肝・腎機能、インスリン分泌能、インスリン抵抗性の程度を医師が評価して薬を選択していきます。

薬によって、働きかける場所が様々ですが、どの薬も血糖値を下げる効果があります。

必ず守って!! 決められた量を、決まった時間に飲みましょう

飲む時間や注射する時間がズレたりすると、効果が弱くなったり、逆に低血糖を起こすほど効果が強くなったりして、とても危険です。

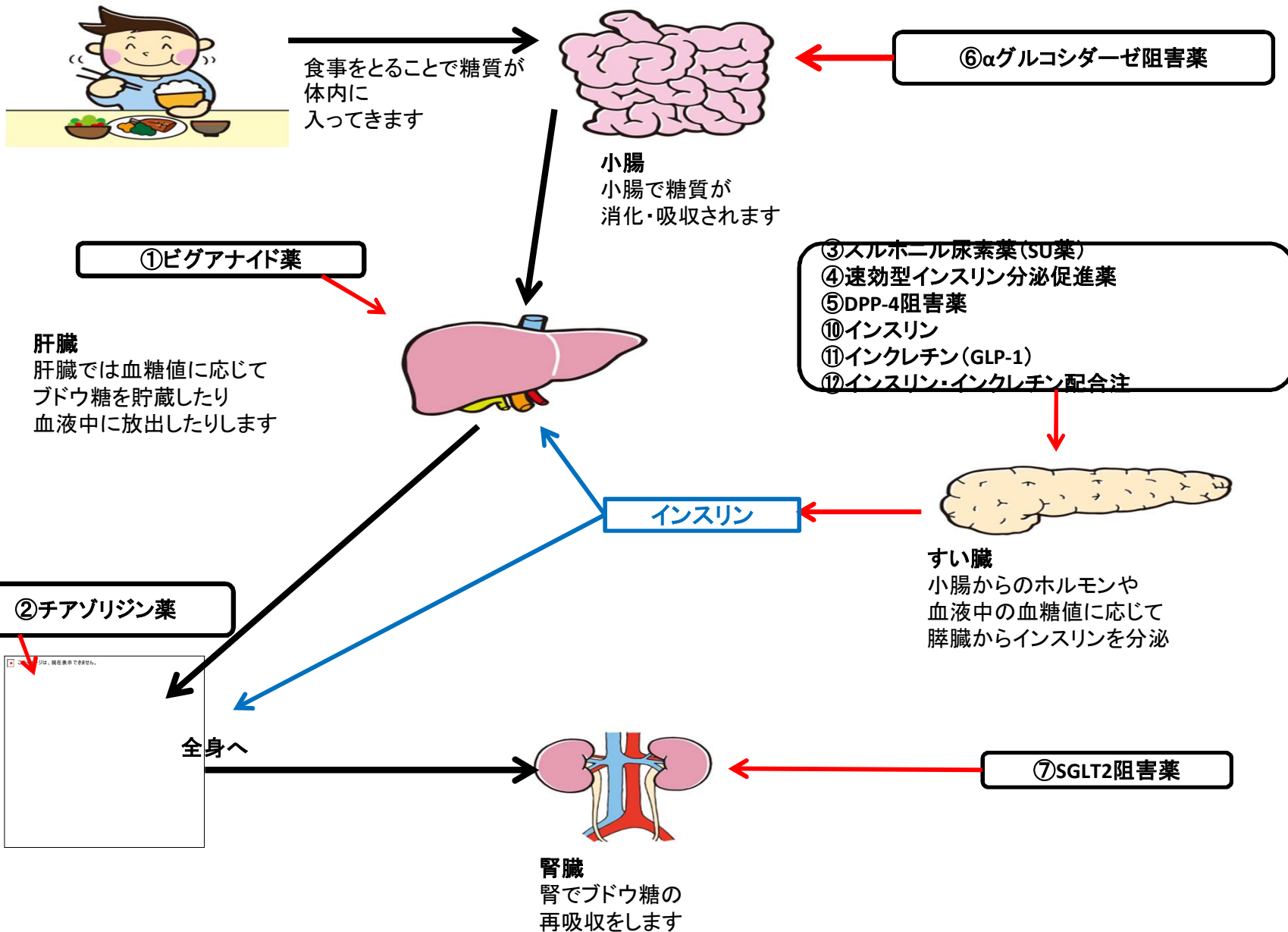
飲み忘れに気づいても決して2回分を同時に飲んだり注射しないでください。このときも低血糖などを起こすことがあります。

薬を飲み忘れたときはどうしたらいいの？

薬によって働きかける場所が様々です。また働き続ける時間もさまざまです。数種類の薬を組み合わせる薬物治療を行いますので、薬の組み合わせ方によって飲み忘れた際の対応が患者さんによって異なります。

外来診察の際や入院中にスタッフに確認しておきましょう。

薬はどこに働いて血糖値をさげるの？



それぞれの薬で知っておきたいこと①・・・飲み薬

2型糖尿病の患者さんは以下の経口血糖降下薬を使うことができます。医師が病態に合わせて選択します。

経口血糖降下薬

I. インスリン抵抗性改善系

① ビグアナイド薬

② チアゾリジン薬

・・・肝臓での糖新生の抑制

・・・骨格筋・肝臓でのインスリン感受性の改善

・・・インスリン分泌の促進

II. インスリン分泌促進系

③ スルホニル尿素薬(SU剤)

④ 速効型インスリン分泌促進薬
(グリニド薬)

⑤ DPP-4阻害薬

・・・速やかなインスリン分泌の促進
・食後高血糖の改善

・・・血糖依存性のインスリン分泌促進
とグルカゴン分泌抑制

・・・炭水化物の吸収遅延
・食後高血糖の改善

III. 糖吸収・排泄調節系

⑥ α -グルコシダーゼ阻害薬(α GI)

⑦ SGLT2阻害薬

・・・腎でのブドウ糖再吸収阻害
による尿中ブドウ糖排泄促進